道頓堀中劇場廣告

明治十七年五月十日開場

抑電氣燈ノ装置タルヤ僅カニ一ノ發電機械ト數尺ノ銅線トヲ用ヒ蒸氣機關ヲ以テ之ヲ運轉スルトキハ能ク數多ノ燈ニ点火スルヲ得然モ其火光ハ一箇ニメ能ク數町ノ遠キヲ照シ宛然白晝ニ異ナラズ中秋ノ明月ト雖モ爲メニ三舍ヲ避ケザルヲ得ズ況ンヤ瓦斯ニ蠟燭トノ如キニ至リテハ實ニ天壌ノ差アリト云フ可シ其功用ノ如斯著明ニシテ遂ケ火災等ノ危險無ク其装置ハ如斯輕便ニシテ且ツ入費ノ要スル所ロハ他ノ燈火ト比シテ巨額ノ減少ヲ致スカ故ニ現ニ世界各國ノ都府已ニ瓦斯燈ヲ設置シタル者モ漸ク變ジテ電氣燈ヲ用ユルニ至タルモノ比々皆是ナリ是然カシナガラ夙トニ泰西諸大家ノ究理ヲ疊ネ經驗ヲ積ミタル結果ニシテ就中當今世界ニ正名ナルモノ米利堅ハエドワトフランジス・ブラッシ氏ノ發明セシモノニ係リ之レヲ我日本帝國一般ノ利用ニ供センカ爲メ該發明者ト專賣條約ヲ結ビ東京銀座街ニ点火シテ世人ノ眼目ヲ新ラタニセシモノハ實ニ大倉組商會ヲ以テ嚆矢トス然リト雖モ此電氣燈タルヤ東京ニ於テハ既ニ該商會ノ勉勵ニ因リテ大政府所有ノ三因工場ニ設置セラレタル有ルモ全國中公衆諸君ノ縦覧ニ供スルノ擧アルハ殆ンド希レナリ茲ヲ以テ小生此回大倉組ト條約ヲ結ビ過般西京祇園新地歌舞練場ニ點火シテ名聲ヲ博シタル同組所有ノ機械ヲ移シテ當劇場ノ中ニ設置シ合セテ俳優一同ノ技藝ヲ抽ンデ當ル五月開場シテ新按演劇ノ所作ト發明電氣ノ功用ト二ツナガラ具備シテ以テ四方諸彦ノ御高覧ニ供セント欲ス是併シナガラ本朝演劇ニ電氣燈ヲ設置スルノ創始ニシテ實ニ開明世界ノ恩驗ト申ス可シ四方諸彦冀クハ永當々々賑々敷御來臨アリテ親シク御實驗御高評ノ程ヲ奉懇願ト云爾

明治十七年五月

大坂道頓堀中劇場

尾張屋頓首敬白

前狂言 天満宮愛梅櫻松

- 第壱 洛西嵐山花見の場
- 第二 天蘭敬来朝の場
- 第三 白木御殿時平七笑の場
- 第四 河内國道明寺の場
- 第五 嶋原出口見初の場
- 第六 同 沢浮屋の場
- 第七 七條東寺縄手の場

中狂言 奈須與市西海硯

- 口 與市郷乳母争の場
- 切 小太郎兄弟出陣の場

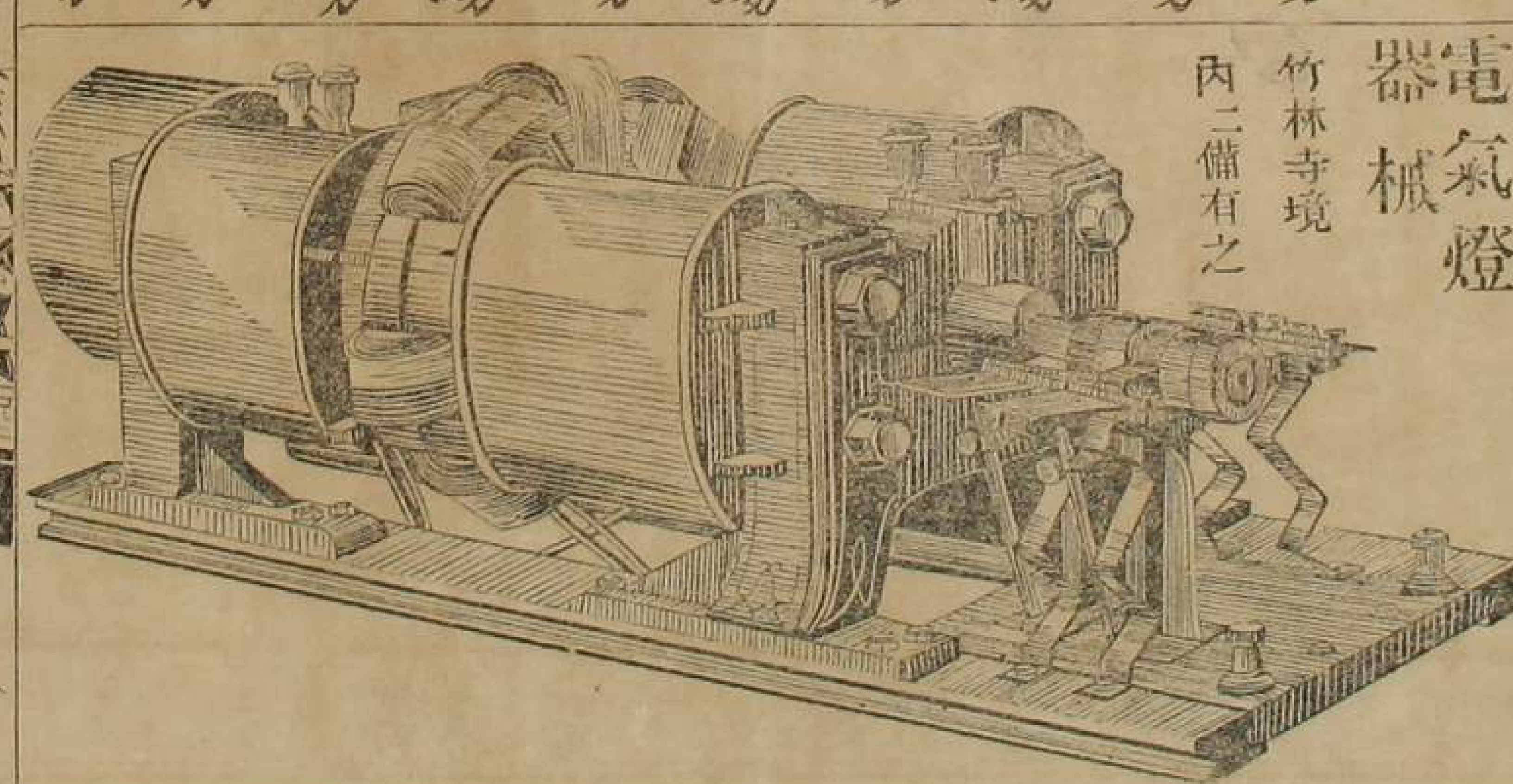
切狂言 真似浪花朝日傳（近頃新聞[illegible] 早竹於申が疾病[illegible]）

- 第壱回 千日見世物小家の場
- 第二回 新金毘羅前[illegible]の場
- 第三回 南阪町早竹於申内の場
- 第四回 今宮村三十両の場
- 第五回 難波村車夫善吉内の場
- 第六回 櫻ノ宮堤暗殺の場
- 第七回 藝妓小松化粧部家の場
- 第八回 神戸病院患者室の場
- 第九回 日向國延岡陣営の場
- 第大團圓 中の嶋浪花踊の場

都踊りを其侭に 芦都へ写絵や **艶競花咲分** 南[illegible]

一ツきさらげく。浪花時も文明の。三ツの調とそろへし。歌舞の花さかむ神の世の。岩戸神楽で写し画や。登る旭のそれならで。今ぞ舞妓のいろどりの花。浪花ひやく電気燈く ハ
頭は火鼓のまねでするも。なんと浪花の一踊り。芦の都と夕汐や。梅乃花びら又ひの桜。数もくおほし又花街の。にぎはひけるれの色そうべ。ヨイヤ〳〵〳〵 ヨイヤサ〳〵
新町南北おりして。後ろ出ひがしの中でそくも。三つの梅の名も綱や。雨さんの中のそぞろむ。ひらとも金のの風うけて。君も白帆の。道筋の丁度。ヨイ〳〵〳〵 ヨイヤサ〳〵 堀をおきうそ流りけれ。黄金の數と金縁義貝。三ツ四ツ五ツ。六ツの花。ヨイ〳〵〳〵 ヨイヤサ〳〵
吉めでかる人しゆう。岩まりのいぶは緒も。ツイかみ花のいろは築座宿のおいや川竹の浪くむの家中の人芝居家うも縁のむし。金の福の前も深く。結びおひくる伯道の。浪花流れのむみ船縁のかたかった掛松の。もなれ浜中と松と竹。梅の花盛常の。錦も浮き紀その海三ツ稲や三ツ盃をのぞきすて。引手の網や誉く。徳もまる世の天地金
演劇物も末廣く。榮さかゆる花舞台多秋事とぞ祝ひける

勝能進 勝諺藏 沂松八十助 振附市川雛子連中



電氣燈器械 竹林寺境内ニ備有之

心齋橋二丁目玉置活版所